KENWOOD

特定小電力トランシーバー

UBZ-BM20R

取扱説明書

お買いあげいただきましてありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
また、この取扱説明書は大切に保管してください。
本機は日本国内専用のモデルですので、外国で使用することはできません。

株式会社 ケンウッド
Kenwood Corporation

© B62-2307-00
09 08 07 06 05 04 03 02 01 00

目次

安全上のご注意 4

ご使用の前に

運用モードについて 7
防塵 / 防水性能および使用環境について 7
本機の付属品 8
バッテリーパックについて 8
バッテリーパックの取り付け 9
バッテリーパックの充電 10
充電台の連結 11
ベルトクリップの取り付け 11
オプションの接続 12
ストラップの取り付け 12

各部の名称と機能

各キーの機能説明 13
表示部のアイコン説明 14
各キーの動作図 15

基本操作

基本通信操作 16
簡易メニュー 17
チャンネル番号の設定 17
グループ番号の設定 17
ボイススクランブル機能の設定 18
メニュー 19
メニューの操作 19
各カテゴリーの設定項目一覧 20
運用モードの設定 22
通信操作 23
シンプレックスモード 23
レピーターアクセスモード 23
オートチャンネルセレクト 24
オートチャンネルセレクトを使う 24
オートチャンネルセレクト範囲設定 24
モニター 25
音量アッテネート 25
プラグインミュート解除 25
コールトーン呼出し 26
キーロック 26
VOX 機能 27
VOX レベル設定 27
VOX 遅延時間設定 28

その他のファンクションメニュー設定

表示に関する設定 29
バックライト動作設定 29
チャンネル非表示設定 29
ディスプレイネーム表示設定 30
ディスプレイネーム内容設定 30
音に関する設定 31
ビープ音量設定 31
通話告知音設定 31
最小ボリューム設定 32
最大ボリューム設定 32
スケルチレベル設定 33
送信に関する設定 34
内部マイク感度設定 34
外部マイク感度設定 34
コンパンダー設定 35
送信パワー設定 35
送信禁止設定 36
PTT ホールド設定 36
自動復帰設定 37

バッテリーに関する設定.....38
オートパワーオフ設定.....38
バッテリーセーブ設定.....38
システム機能設定.....39
オプション出力設定.....39

キーメニュー設定

キーメニュー.....40
トランシーバー本体キーの設定.....41
リモコンキーの設定.....41

エマージェンシー機能

エマージェンシー操作.....42
エマージェンシーメニュー.....43
エマージェンシーオーディオ動作設定...43
バックグランドトーン設定.....43

その他

オプション一覧.....44
故障かな？と思ったら.....45
共通.....45
中継器を使用している場合.....46
リセット.....46
保証とアフターサービス.....47
仕様.....裏表紙

説明上の注釈表記について

このマークが付いた注釈は、使用上での注意事項が記載されています。

このマークが付いた注釈は、使用上での補足事項が記載されています。

安全上のご注意

絵表示について

この「安全上のご注意」には、お使いになるかたや他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。ご使用の際には、次の内容 (表示と意味) をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

⚠危険 この表示を無視して誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

⚠警告 この表示を無視して誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意 この表示を無視して誤った取扱をすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

⚠ △記号は、注意 (危険・警告を含む) を促す内容があることを告げるものです。図の近くに具体的な注意内容を示しています。

⃠ ⃠記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容 (左図の場合は分解禁止) を示しています。

● ●記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な指示内容 (左図の場合は電源プラグを AC コンセントから抜く) を示しています。

お客様または第三者が、この製品の誤使用、使用中に生じた故障、その他の不具合、またはこの製品の使用によって受けられた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

⚠危険

使用環境・条件

⚠ 引火、爆発の恐れがありますので、プロパンガス、ガソリン等の可燃性ガスの発生するような場所では使用しないでください。

⚠ 運転しながら本機を操作(交信)するのはおやめください。安全な場所へ車を停車させてから操作 (交信) してください。

バッテリーパックの取扱について

バッテリーパックは以下のことをお守りいただけない場合、けがや電池の漏液、発火、発熱、破裂させる原因となります。

⚠ バッテリーパックを電磁調理器の上に置いたり、電子レンジや高圧容器に入れないで下さい。

⃠ 充電温度範囲は、5℃～ 40℃です。この温度範囲以外では充電しないでください。

⃠ 専用充電台以外では充電しないでください。

⃠ 本機以外の機器に取付けないでください。

⃠ 火の中に投入したり、加熱したり、ハンダ付けしたり、分解しないでください。

⃠ 端子を針金などの金属類でショートさせないでください。また、ネックレスやヘアピンなどの金属物と一緒に持ち運んだり、保管しないでください。

● 液が目に入ったときは、失明のおそれがありますので、こすらずに、すぐにきれいな水で洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。

● 液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。

⚠警告

使用環境・条件

電子機器 (特に医療機器) の近くでは使用しないでください。電波障害により機器の故障・誤動作の原因となります。

空港施設、鉄道施設、港湾、病院などの管理区域に指定されている場所での無線機器の使用については、各施設管理者にお問い合わせ、ご確認した上でご使用ください。

本機を使用できるのは、日本国内のみです。国外では使用できません。

AC アダプターの取扱について

AC100V 以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

タコ足配線はしないでください。過熱・発火の原因となります。

濡れた手で電源プラグに触れたり、電源コードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

電源プラグは AC コンセントに確実に差し込んでください。電源プラグの端子に金属などが触れると、火災・感電・故障の原因となります。

電源プラグの端子にほこりが付着したまま使用しないでください。ショートや過熱により火災や感電の原因になります。

使用方法について

機械に巻き込まれる恐れのある場所では、スピーカーマイクロホン等のケーブルを首にかけないでください。怪我の原因となります。

本機の近くに小さな金属物や水などの入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災･感電･故障の原因となります。

本機は調整済みです。分解・改造して使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

アンテナやストラップを持って、無線機を振り回さないでください。人に当ってけがを負わせたり、物に当って無線機が破損することがあります。

異常時の処置について

内部に水や異物が入った場合や、落としたり、ケースを破損した場合、または異常な音がしたり、煙が出たり、変な臭いがするなどの、異常な状態になった場合は、そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。

落下などにより破損した部品には直接触らないでください。怪我の原因となります。

煙が出たら、すぐに電源スイッチを切り、バッテリーパックを外し、充電中は電源プラグを AC コンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認してから、お買い上げの販売店にご連絡ください。

雷が鳴り出したら、安全のため早めに電源スイッチを切り、充電中は電源プラグを AC コンセントから抜いて、ご使用をおひかえください。

保守・点検

本機のケースは開けないでください。感電・けが・故障の原因となります。内部の点検・修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

お客様による修理は、危険ですから絶対におやめください。

⚠注意

使用環境・条件

テレビやラジオの近くで使用しないでください。電波障害を与えたり、受けたりすることがあります。

直射日光が当たる場所や車のヒーターの吹き出し口など、異常に温度が高くなる場所には置かないでください。内部の温度が上がり、ケースや部品が変形・変色したり、火災の原因となることがあります。

ぐらついた台の上や傾いた所、振動の多い場所には置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

結露した場合は、自然乾燥させるか、長い時間同じ環境に置くなどして、結露がなくなってからご使用ください。

AC アダプターの取扱について

AC アダプターのコードを熱器具に近づけないでください。コードの被覆が溶けて火災・感電・故障の原因となることがあります。

AC アダプターを抜くときは、必ずプラグを持ってください。コードを引っぱると、コードが傷つき、火災・感電・故障の原因となることがあります。

使用方法について

アンテナを誤って目にささないようにご注意ください。

スピーカー / マイク端子には指定されたオプション以外は接続しないでください。故障の原因となることがあります。

乾燥した部屋やカーペットを敷いた廊下などでは静電気が発生しやすくなります。このような場所では、イヤホンを使用した時に静電気で耳の皮膚に電気ショックを感じることがあります。静電気が発生しやすい場所ではイヤホンを使用しないか、スピーカーマイクロホンをご使用ください。

長期間使わないときは、電源スイッチを切り、バッテリーパックを外して、AC アダプターの電源プラグを AC コンセントから抜いてください。

イヤホンを使用するときは、電源を入れる前に音量ツマミを下げてください。聴覚障害の原因となることがあります。

お手入れの際は、電源スイッチを切り、バッテリーパックを外して、AC アダプターの電源プラグを AC コンセントから抜いてください。

水滴が付いたら、乾いた布でふき取ってください。汚れのひどいときは、水で薄めた中性洗剤をご使用ください。シンナーやベンジンは使用しないでください。

電波法に関するご注意

- 本機裏面の技術基準適合証明ラベルをはがさないでください。使用できなくなります。
- 本機を分解したり、改造して使用することは電波法により禁止されています。
- 他人の通信を聞いてこれを漏らしたり、窃用することは電波法により禁止されています。

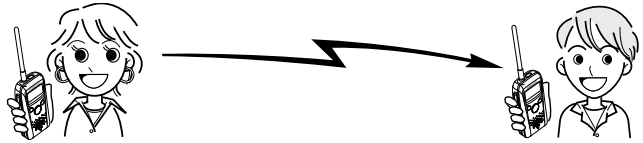
ご使用の前に

運用モードについて

本機は 2 つの運用モードを選択できます。

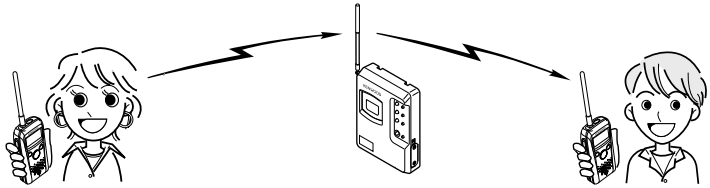
■ シンプレックスモード (SP)

直接トランシーバー同士で通話するモードです。20 チャンネルに対応し、従来の 9 チャンネルと 11 チャンネルのどちらも使用できます。



■ レピーターアクセスモード (セミデュプレックスモード：SdP)

レピーター (中継器) を介して通話するモードです。安定して通話できる範囲が広がります。27 チャンネルに対応し、従来の 9 チャンネルと 18 チャンネルのどちらも使用できます。



- 通話のできる距離は地形や環境によって大きく異なりますが、目安は次のとおりです。
  建築物が多い地域や、自動車などの金属物体の周囲では、通話のできる距離が短くなります。
  - 市街地：100 ～ 200 m
  - 見通しのよい場所：1 ～ 2 km

防塵 / 防水性能および使用環境について

- 本製品は設計段階において該当する防塵 / 防水性能の社内試験をおこないその性能を確認しておりますが、実際の使用においては下記の条件や注意事項をお守りください。
  - 防水保護 IP67 相当の防塵 / 防水性能を備えていますが、実際のご使用にあたって、全ての状況で防塵 / 防水を保証するものではありません。
  - 通常の使用状態で IP67 相当の防塵 / 防水性能が維持できる期間は 1 年です。(端子カバー、バッテリーカバー装着時)
    ※防塵 / 防水性能維持のための特別なメンテナンスプログラムは用意してございません。
  - 端子カバーやバッテリーカバーは確実に取り付けてから固定してください。また、取り付ける際には、微細なゴミ(微細な繊維、髪の毛、砂など)を挟んでいないか、ご確認ください。
  - 石鹸水、洗剤、調味料、ジュース、海水、油など水道水以外のものをかけたり、浸けたりしないでください。また、高温のお湯や冷水に浸けたり、かけたりしないでください。
  - 本機が濡れている状態で端子カバーやバッテリーカバーの開閉をおこなわないでください。
  - スピーカー / マイク端子にオプションを接続していて、付属のマイクプラグ固定金具で使用している場合の無線機本体は IP54 の防塵 / 防滴仕様となります。なお、オプション自体の防塵 / 防水性能は各オプション製品により異なります。
  - 付属の充電台や AC アダプターは防水仕様ではありません。本機が濡れている状態では使用しないでください。
  - イヤホン(HS, UHS シリーズ)を本機に単体で接続して使用する場合は、防塵 / 防水にはなりません。
  - 本機に衝撃を与えた場合は、防塵 / 防水性能に影響を与える場合があります。
- テレビやラジオ、パソコンなど電子機器の近くで使用すると、電波妨害を与えたり、受けたりすることがあります。これらの機器からは離れてお使いください。

本機の付属品

付属品がすべて揃っていることをご確認ください。

- リチウムイオンバッテリーパック(UPB-6L) 1
- 充電台 1
- AC アダプター 1
- 充電台連結用金具 1
- 充電台連結用ネジ 2
- ベルトクリップ 1
- ベルトクリップ取付用ネジ 2
- マイクプラグ固定金具 1
- 保証書 1
- ケンウッド全国サービス一覧 1
- 取扱説明書(本書) 1

バッテリーパックについて

バッテリーパックの使用可能時間

内蔵スピーカー使用時：**約 15 時間**

外部スピーカー(イヤホン)使用時：**約 20 時間**

※ **測定条件：** 送信 6 秒 / 受信 6 秒 / 待ち受け 48 秒の繰り返し（送信出力 10mW 、バッテリーセーブ機能 ON、室温 25℃）

※ バッテリーパックの使用可能時間は周囲温度、音量レベル、バッテリーの劣化度合いなどの使用条件により変動します。

バッテリー残量表示について

バッテリー残量の目安を三段階で表示します。

1 個点灯になると、警告音が「ピーピーピーピー」と 4 回鳴り、バッテリー容量が低下していることをお知らせします。早めに電源を OFF にしてバッテリーパックを充電してください。

バッテリーセーブについて

バッテリーパックの消耗を防ぐ機能です。待ち受け状態で約 5 秒間キー操作がないと、この機能が働きます。信号を受信するか、キー操作がおこなわれるとバッテリーセーブは解除されます。

※ バッテリーセーブはモニター中やオートチャンネルセレクト中は動作しません。

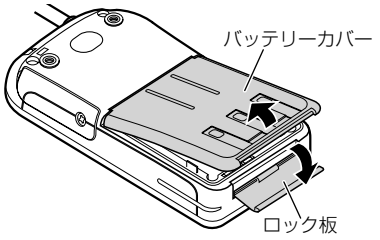
バッテリーパックの特性について

- 充電／放電を繰り返すと、使用できる時間が徐々に短くなります。
- 使用せずに置いておくだけでもわずかながらバッテリーパックの劣化が進みます。
- 高温状態で充電／放電をおこなったり、トランシーバーを使用すると寿命が短くなります。また、高温状態での保管も劣化の進行が早まります。車の中に置いたままにしたり、暖房機の上に置いたりしないでください。
- バッテリーパックを高温状態で放置すると使用できなくなります。バッテリーパックが冷えてから使用してください。冷えても使用できない場合は、一度充電してください。使用できるようになります。
- 長期間保存後は、バッテリー容量が低下していることがあります。必ず充電してからご使用ください。

バッテリーパックの取り付け

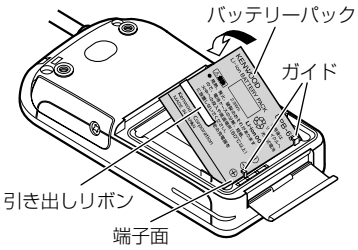
1 バッテリーカバーを取り外す

ロック板を解除して、バッテリーカバーを外します。



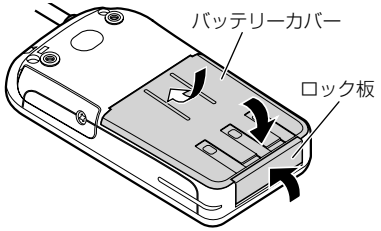
2 バッテリーパックを取り付ける

バッテリーパックは引き出しリボンを表にして、端子位置が左下であることを確認し、ガイドに合わせてから取り付けます。



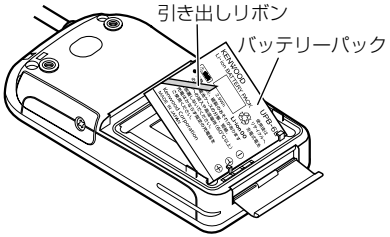
3 バッテリーカバーを取り付ける

バッテリーカバー上側を本体の溝に合わせて、ロック板を「カチッ」と音がするまで押し込みます。



バッテリーパックを取り外す時は

バッテリーカバーを外して、バッテリーパックの引き出しリボンを引っ張ってバッテリーパックを取り外します。



- ♦ 誤って異なる方向にバッテリーパックを取り付けると、バッテリーパックが取り出せなくなる場合があります。バッテリーパックが取り出せなくなったら、本体を振ってバッテリーパックを出して（バッテリーパックを落とさないように注意してください）、正しく取り付けください。
- ♦ お買い上げ時にバッテリーパックは満充電されていません。お使いになる前に必ず満充電にしてご使用ください。
- ♦ 付属の充電台以外でバッテリーパックを充電しないでください。
- ♦ 長時間お使いにならないときは、バッテリーパックを本機から取り出してください。
- ♦ バッテリーパックの端子をショートさせたり、バッテリーパックを火中に投じたりしないでください。また、バッテリーパックを分解しないでください。

使用済み充電式バッテリーパックの取扱注意事項

- プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。

Li-ion 00 充電式

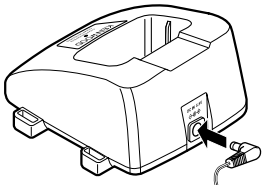
不要になったバッテリーパックは、貴重な資源を守るために廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店、当社営業担当窓口または代理店へお持ちください。
リサイクルにご協力お願いいたします。

バッテリーパックの充電

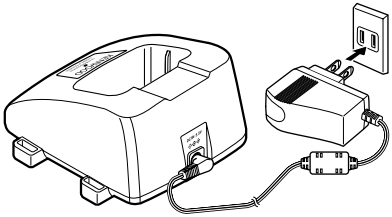
トランシーバーをはじめてお使いになるときや、使用後はバッテリーパックを充電してください。

- ♦ トランシーバーが濡れたままや汚れたままでで充電すると、故障の原因になります。トランシーバーについた水分や汚れを乾いた布でよくふき取ってから充電台に差し込んでください。
- ♦ 充電する時はトランシーバーの電源を OFF にしてください。
- ♦ バッテリーパックの残容量がゼロ近くになると、トランシーバーの電源が ON/OFF を繰り返して、[⏻]キーを押しても本体の電源をOFFにできないことがあります。この場合はトランシーバーを充電台に差し込み、5～10分たって電源がON/OFFを繰り返さないようになってから、トランシーバーの電源を OFF にして、充電してください。

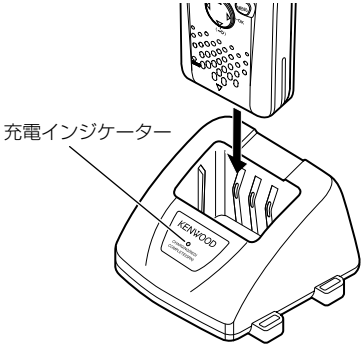
1 ACアダプターのDCプラグを充電台のDC IN 端子に差し込む



2 ACアダプターのACプラグをACコンセントに差し込む



3 トランシーバーを充電台に差し込む



充電中は充電インジケーターが赤色に点灯します。

4 充電インジケーターが緑色に点灯して、充電が完了する

トランシーバーを抜き取ります。

充電時間の目安は 3 時間です。

充電インジケーターが点灯しない、または赤色点滅する場合は・・・

- バッテリーパックが異常である ➔ 新しいバッテリーパックを使用してください。
- 端子が接触不良になっている ➔ 端子を綿棒や乾いた布で拭いてから、再度充電してください。
- バッテリーパックが極端に高温または低温になっている ➔ 室温に戻してから、再度充電してください。

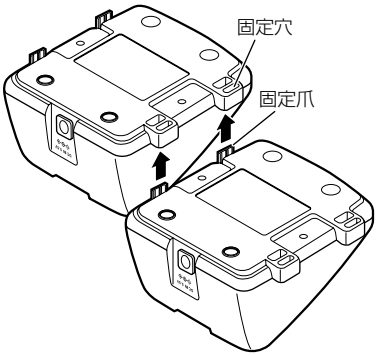
- ♦ AC アダプターのコードに足を引っかけたりすると、充電台や本機の落下・破損の原因となります。コードに無理な力が加わるような場所への設置は避けてください。
- ♦ AC アダプターは専用の付属品を使用してください。付属品以外のものを使用した場合、火災・感電・故障の原因となることがあります。
- ♦ 充電台は本機専用です。他の機器を充電台に差し込まないでください。
- ♦ 充電端子を金属物などでショートさせないでください。
- ♦ 満充電しても使用時間が短くなってきた場合は、バッテリーパックの寿命です。このまま充電／放電を繰り返すと、液漏れの原因になることがあります。新しいバッテリーパックをお買い求めください（寿命の目安は充電／放電で 300 回です）。
- ♦ 充電台の端子は、ゴミなどが付着しないように綿棒や乾いたやわらかい布で時々拭いてください。
- ♦ 充電台の近くでトランシーバーを使用すると、充電台が誤動作することがあります。
- ♦ トランシーバーの電源を ON した状態で充電台に差し込むと、トランシーバーのバッテリー残量表示が満充電表示になりますが、充電完了の表示ではありません。電源を OFF にして充電台の充電インジケーターが緑色になるまで充電してください。

充電台の連結

複数の充電台を並べて設置したい場合は、付属の連結金具とネジを使用して充電台同士を連結することができます。

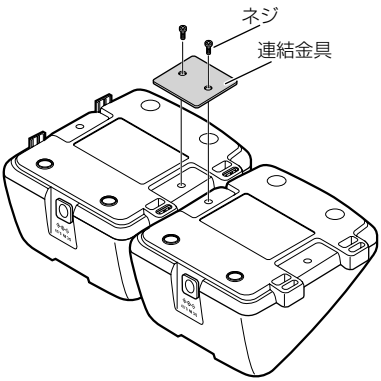
1 充電台を連結する

充電台底にある固定爪と固定穴を使用して連結します。



2 連結金具を取付ける

連結金具をネジで 2 台の充電台に取付けます。

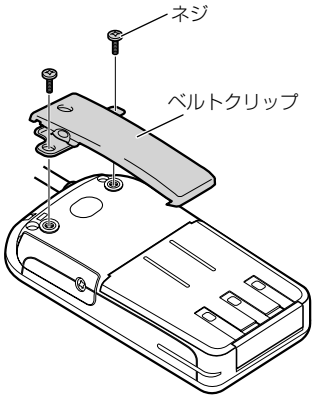


- ♦ 連結した状態で充電台を持ち上げたり、移動させたりしないでください。
- ♦ オプションの AC アダプター UBC-5ML を使用すると、1 つのコンセントで最大 6 台までの充電台を接続する事が可能です。

ベルトクリップの取り付け

ベルトクリップと一緒に同梱されている取り付けネジ (M3 × 4mm) を使用して取り付けます。

ベルトクリップを本体のネジ穴に合わせて、ネジで止めます。



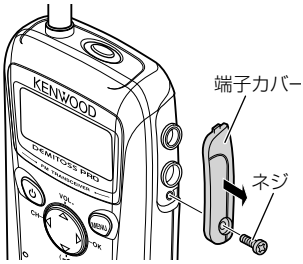
- ♦ ネジには緩み防止剤が塗布してあります。何度も脱着すると、ネジが緩みやすくなります。

オプションの接続

イヤホン付マイクロホン、スピーカーマイクロホンやヘッドセット等を取り付けるときは、接触不良を防ぎ、防水性能を維持するため、必ずマイクプラグ固定金具を取り付けてください。

- **オプションを接続するときは、電源を OFF にしてください。**
- **マイクプラグ固定金具を取り付けた時は、本機の防塵 / 防水性能は IP54 になります。**

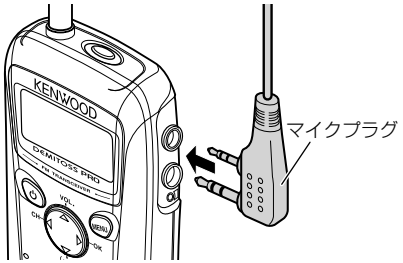
1 端子カバーを外す



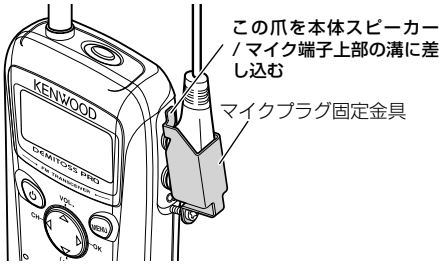
プラスドライバー(＃1)でネジを左方向に回して取り外し、端子カバーを外します。

> ♦ 取り外した端子カバーとネジは無くさないようご注意ください。

2 オプション製品のマイクプラグをスピーカー/マイク端子に接続する

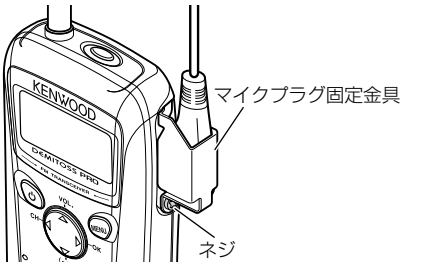


3 マイクプラグ固定金具を取り付ける



金具の上部ある爪を本体スピーカー / マイク端子上部の溝に差し込みます。

4 マイクプラグ固定金具を固定する

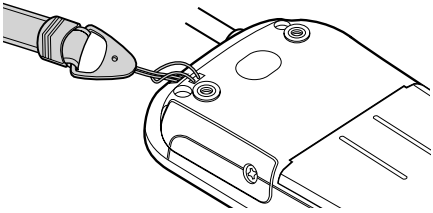


ネジをプラスドライバー(＃1)で右方向に回し確実に締め付けてください。

> ♦ 断線防止のため、マイクプラグを取外すときは、プラグ部を持って取り外してください。

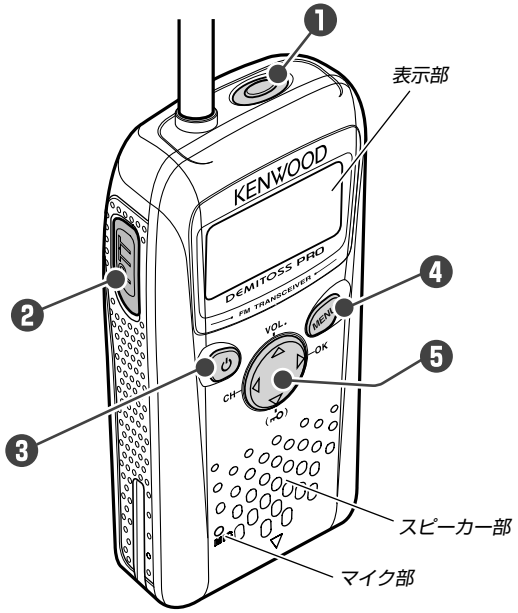
ストラップの取り付け

別売品のネックストラップ SB-4 や市販品のストラップを取り付けるときは、トランシーバー背面上部のストラップ用穴を使用してください。



各部の名称と機能

各キーの機能説明



❶【TOP】(オレンジ色)キー

押すと音量アッテネート機能が働き、音量が下がります。もう一度押すと元の音量に戻ります。《☛ p.25》

- 【TOP】キーはエマージェンシー送信機能に変更することができます《☛ p.40》

❷【PTT】キー

送信するときに押します。離すと待ち受け状態になります。

❸【⏻】キー

押す(0.5秒以上)ごとに電源がON/OFFします。

❹【MENU】キー

■ 押すと簡易メニューを表示します。《☛ p.17》

■ 押しながら電源を ON にすると、メニューを表示します。《☛ p.19》

❺【▲】【▼】【◀】【▶】キー

【▲】:音量を大きくします。

【▼】:音量を小さくします。

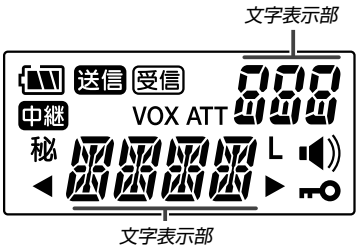
【◀】:チャンネル番号が下がります。

【▶】:チャンネル番号が上がります。

- 【◀】【▶】キーは別の機能に変更することができます《☛ p.40》
- メニューの設定は【▲】【▼】【◀】【▶】を操作しておこないます。

■ 【▼】を押しながら電源をONにすると、【◀】【▶】【MENU】【TOP】のキーがロックされます。《☛ p.26》

表示部のアイコン説明

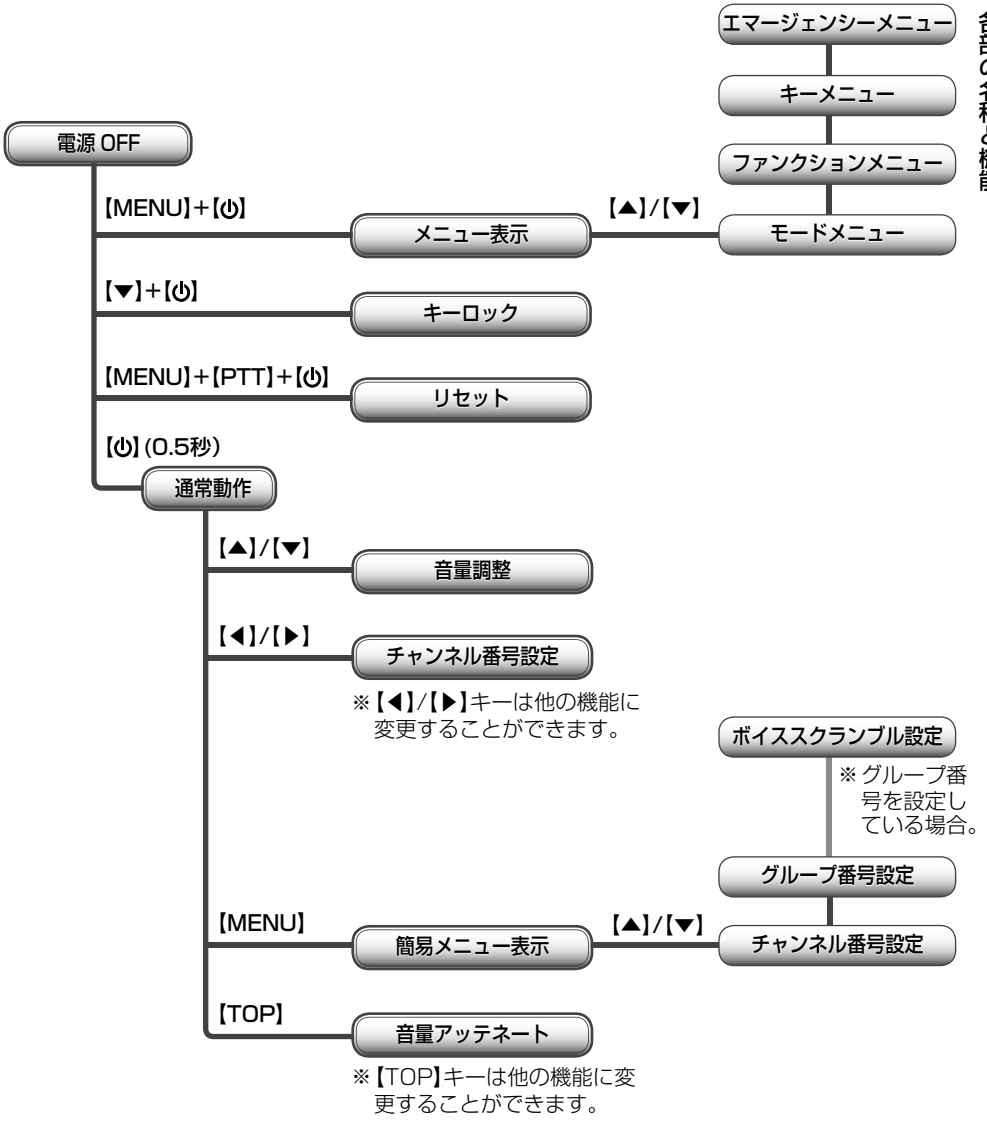


表示	説明	関連ページ
	バッテリーパックの残量(目安)を表示します。	8
送信	送信中に表示します。	16
受信	受信中に表示します。	
中継	運用モードがレピーターアクセスモードに設定されているときに表示します。	22
秘	ボイススクランブル機能が ON に設定されているときに表示します。	18
VOX	VOX 機能が働いているときに表示します。	27
ATT	音量アッテネート機能が働いているときに表示します。	25
L	ローパワー送信に設定されているときに表示します。	35
	内蔵スピーカーが有効なときに表示します。	16
	キーロック機能が働いているときに表示します。	26
◀	設定画面で【◀】キーが有効なときに表示します。	–
▶	設定画面で【▶】キーが有効なときに表示します。	

各キーの動作図

電源が OFF の状態から各キーを操作したときの動作です。

【キー名称】+【⏻】：キーを押しながら電源を ON します。
【キー名称】(○秒)：キーを○秒以上押します。



基本操作

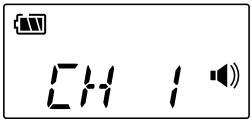
基本通信操作

初期設定のシンプレックスモードで通信する場合の手順です。

- レピーターアクセスモードでの通信操作は《「運用モードの設定」☛ p.22》をご覧ください。

1 【⏻】を押す（0.5秒以上）

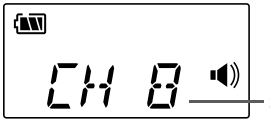
電源が ON になり、チャンネル番号が表示されます。



2 【◀】【▶】を押して通信するチャンネル番号に切り替える

【▶】を押すとチャンネル番号が上がります。

【◀】を押すとチャンネル番号が下がります。

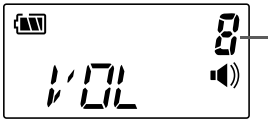


- 【◀】または【▶】を押し続けると、押している間連続してチャンネル番号が切り替わります。

3 【▲】【▼】を押し、音量レベルを上げておく（ビープ音を目安にします）

【▲】を押すと音量が大きくなります。

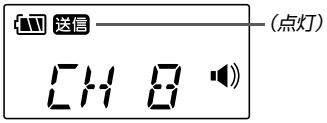
【▼】を押すと音量が小さくなります。



- 【▲】または【▼】を押し続けると、押している間連続して音量が切り替わります。

4 【PTT】を押しながら話す

「送信」が点灯し、送信状態になります。

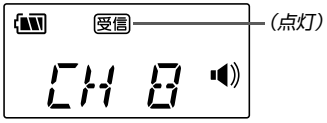


マイク部から口を5cm くらい離してお話しください。

5 話終わったら、【PTT】から指を離す

待ち受け状態になります。

受信すると「受信」が点灯します。



【▲】【▼】を押し好みの音量に調整してください。

6 手順4と5の操作を繰り返して、通信する

トランシーバーを使用しないときは【⏻】を押し（0.5 秒以上）電源を OFF にします。

♦ 内蔵スピーカーが有効な時は「🔊」が表示されます。スピーカー / マイク端子にオプションを接続すると、プラグインミュート機能が働いて内蔵スピーカーが無効になり、「🔊」表示が消えます。スピーカー / マイク端子からオプションを外すと内蔵スピーカーが有効になります。

簡易メニュー

チャンネル番号の設定

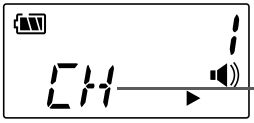
設定されている運用モードにより下記のチャンネル番号が選択できます。

運用モード	設定範囲
シンプレックスモード	CH 1 ～ CH 11、CH h1 ～ CH h9
レピーターアクセスモード	CH 1 ～ CH 18、CH h1 ～ CH h9

1 【MENU】を押す

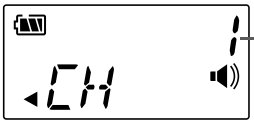
簡易メニューモードになります。

2 【▲】または【▼】を押して「CH」を選ぶ



3 【▶】を押す

チャンネル番号が点滅します。



4 【▲】または【▼】を押す

チャンネル番号が切り替わります。

5 【▶】を押す

選択したチャンネル番号を確定して、手順2の設定項目選択画面に戻ります。

- 設定が確定したときは、「ピ、ピ、ピ」と確定音が鳴ります。
- 【◀】を押すと選択した設定値は確定しないで、手順2の設定項目選択画面になります。

6 【MENU】を押す

または10秒間何もキーを操作しないと、簡易メニューが終了します。

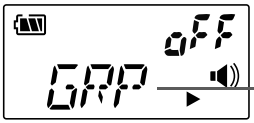
グループ番号の設定

他のグループと同じチャンネルで交信している場合、お互いの声が混ざり合って通信しづらくなります。仲間どうしでグループ番号を設定しておくと、混信がなくなって快適に通話ができます。

1 【MENU】を押す

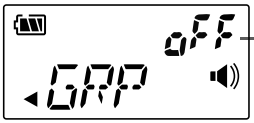
簡易メニューモードになります。

2 【▲】または【▼】を押して「GRP」を選ぶ



3 【▶】を押す

グループ番号が点滅します。



4 【▲】または【▼】を押す

グループ番号が切り替わります。

5 【▶】を押す

選択したグループ番号を確定して、手順2の設定項目選択画面に戻ります。

- 設定が確定したときは、「ピ、ピ、ピ」と確定音が鳴ります。
- 【◀】を押すと選択した設定値は確定しないで、手順2の設定項目選択画面になります。

6 【MENU】を押す

または10秒間何もキーを操作しないと、簡易メニューが終了します。

ボイススクランブル機能の設定

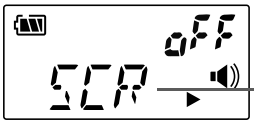
グループ番号を設定するとボイススクランブル機能が使用できます。ボイススクランブル機能をONに設定していないトランシーバーでは会話が聞き取れなくなります。

1 【MENU】を押す

簡易メニューモードになります。

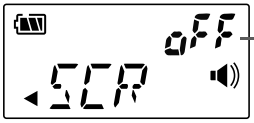
2 グループ番号を設定しておく

3 【▲】または【▼】を押して「SCR」を選ぶ



4 【▶】を押す

設定値が点滅します。

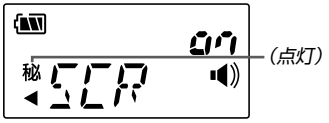


5 【▲】または【▼】を押す

設定値を選択します。

設定	動作
oFF(OFF)	ボイススクランブル機能をOFFします。
on(ON)	ボイススクランブル機能をONします。

「on」に設定すると「秘」が点灯します。



6 【▶】を押す

選択した設定を確定して、手順3の設定項目選択画面に戻ります。

- 設定が確定したときは、「ピ、ピ、ピ」と確定音が鳴ります。
- 【◀】を押すと選択した設定値は確定しないで、手順3の設定項目選択画面になります。

7 【MENU】を押す

または10秒間何もキーを操作しないと、簡易メニューが終了します。

- ♦ 他のグループが同じチャンネル番号を使用している場合、音声は聞こえなくても受信状態になり、「受信」が点灯します。このときに【PTT】を押しても「プー」と鳴って送信できません。
- ♦ 運用モードがレピーターアクセスモードに設定されているときは、チャンネル番号とグループ番号はレピーターの設定と同じにします。
- ♦ チャンネル番号、グループ番号、ボイススクランブルの設定は通話する相手の方と設定を合わせてください。全ての設定が合っていないと通話ができません。
- ♦ グループ番号とボイススクランブル設定が一致した場合、第三者でも通信を傍受できます。
- ♦ グループ番号をOFFにすると、ボイススクランブル機能もOFFになります。
- ♦ バッテリーセーブ機能が働いているときに、同じグループを受信すると、バッテリーセーブ機能は自動的に解除されますが、違うグループを受信している場合は、バッテリーセーブ機能は解除されません。このときに受信信号の確認動作を繰り返しおこなうため、「受信」が点滅表示することがあります。

メニュー

各機能の設定はメニューにておこないます。

メニューは下記のカテゴリーに分かれています。

表示	カテゴリー	内容
MODE	モードメニュー	運用モードを設定するメニューです。
FUNC	ファンクションメニュー	本体の各種機能を設定するメニューです。
KEY	キーメニュー	トランシーバー本体の【◀】、【▶】、【TOP】キー、およびリモコンマイクロホンのリモコンキーに機能を設定するメニューです。
EMER	エマージェンシーメニュー	エマージェンシー機能を設定するメニューです。

メニューの操作

1 【⏻】を押し、一度電源をOFFにする

2 【MENU】を押しながら【⏻】を押し、電源をONする

メニューのカテゴリー選択画面が表示されます。

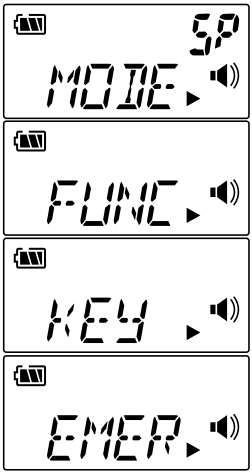
3 【▲】または【▼】を押す

カテゴリーが切り替わります。

【▲】を押すと順送りで切り替わります。

【▼】を押すと逆送りで切り替わります。

設定したいカテゴリーを選択します。

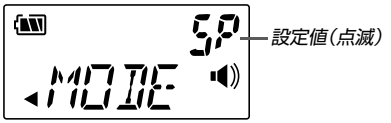


4 【▶】を押す

カテゴリーがMODEのとき

設定変更画面になります。

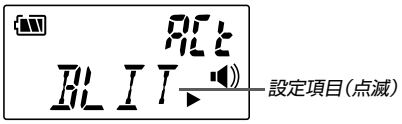
手順 7 に進みます。



カテゴリーがMODE以外のとき

選択したカテゴリーの設定項目選択画面に切り替わり、設定項目が点滅します。(例：FUNC を選択したとき)

手順 5 に進みます。



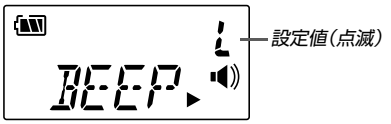
5 【▲】または【▼】を押して、設定項目を選択する

【▲】を押すと順送りで切り替わります。

【▼】を押すと逆送りで切り替わります。

6 【▶】を押す

設定変更画面になり、設定値が点滅します。



- 【◀】を押すと設定項目選択画面に戻ります。

<次ページに続く>

7 【▲】または【▼】を押して、設定値を選択する

【▲】を押すと順送りで切り替わります。
【▼】を押すと逆送りで切り替わります。

8 【▶】を押す

設定値を確定して、設定項目選択画面に戻ります。

- 設定が確定したときは、「ピ、ピ、ピ」と確定音が鳴ります。
- 【◀】を押すと選択した設定値は確定しないで、設定項目選択画面に戻ります。

9 【MENU】を押す

メニューモードが終了します。

各カテゴリーの設定項目一覧

モードメニュー(MODE)

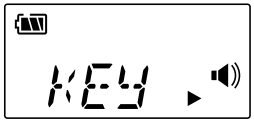
表示	設定項目	設定値	初期値	参照ページ
MODE	運用モード設定	SP/SdP	SP	22

ファンクションメニュー(FUNC)

表示	設定項目	設定値	初期値	参照ページ
BLIT	バックライト動作設定	oFF/ACt/Any/on	ACt	29
CH−−	チャンネル非表示設定	oFF/on	oFF	
BEEP	ビープ音量設定	oFF/L/m/H	L	31
TONE	通話告知音設定	oFF/P-/-r/P-r	oFF	
MINV	最小ボリューム設定	0 ～ 31	0	32
MAXV	最大ボリューム設定	0 ～ 31	31	
SQL	スケルチレベル設定	oFF/1/2/3	1	33
MICI	内部マイク感度設定	L/m/H	m	34
MICE	外部マイク感度設定	L/m/H	m	
CMPD	コンパンダー設定	oFF/on	oFF	35
TXPW	送信パワー設定	L/H	H	
TX−I	送信禁止設定	oFF/on	oFF	36
VOX	VOXレベル設定	oFF/1/2/3/4/5	oFF	27
VOXD	VOX遅延時間設定	03/05/10/15/30	05	28
P−HD	PTTホールド設定	oFF/on	oFF	36

表示	設定項目	設定値	初期値	参照ページ
RETX	自動復帰設定	oFF/on	oFF	37
BAND	オートチャンネルセレクト範囲設定	Sbd/ALL	ALL	24
APO	オートパワーオフ設定	oFF/on	oFF	38
SAVE	バッテリーセーブ設定	oFF/on	on	38
OPT	オプション出力設定	oFF/CAr/SqL/GrP	oFF	39
DSPN	ディスプレイネーム表示設定	oFF/on	oFF	30
NAME	ディスプレイネーム内容設定	4 桁	BM20	

キーメニュー(KEY)



表示	設定項目	設定値	初期値	参照ページ
LEFT	プログラム【◀】キー設定	oFF/mon/SCA/C31/C32/SPA/Plm/CHU/CHd	CHd	40
RIGH	プログラム【▶】キー設定		CHU	
TOP	プログラム【TOP】キー設定	oFF/mon/SCA/C31/C32/SPA/Plm/CHU/CHd/EmG	SPA	
REM1	リモコンキー 1 設定	oFF/mon/SCA/C31/C32/SPA/Plm/CHU/CHd/EmG/vLU/vLd	vLU	
REM2	リモコンキー 2 設定		vLd	
REM3	リモコンキー 3 設定		SPA	

エマージェンシーメニュー(EMER)

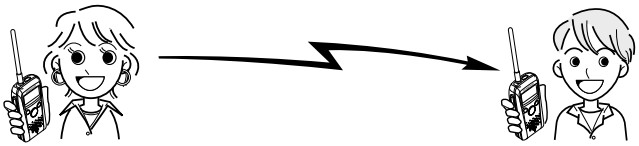
表示	設定項目	設定値	初期値	参照ページ
EMAD	エマージェンシーオーディオ動作設定	SIL/ESP/AUd	AUd	43
BGTX	バックグランドトーン設定	oFF/on	on	

運用モードの設定

通信方法により運用モードを設定してください。

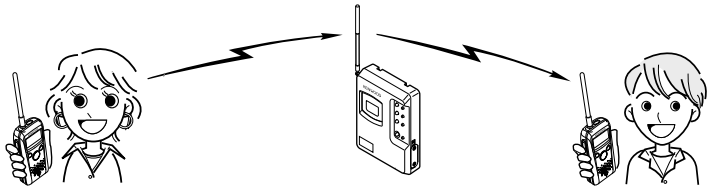
■ シンプレックスモード

レピーター(中継器)を介さずに直接トランシーバー同士で通信するモードです。



■ レピーターアクセスモード(セミデュプレックスモード)

レピーター(中継器)を介して通信するモードです。



1 【⏻】を押し、一度電源をOFFにする

2 【MENU】を押しながら【⏻】を押し、電源をONする

メニューカテゴリー選択画面が表示されます。

3 【▲】または【▼】を押して「MODE」を選択する

4 【▶】を押す

設定変更画面になります。

5 【▲】または【▼】を押してモードを選択する

設定値	動作
SP	シンプレックスモードで通信します。
SdP	レピーターアクセスモードで通信します。

シンプレックスモード

レピーターアクセスモード

- レピーターアクセスモードに設定すると「中継」が表示されます。

6 【▶】を押す

設定を確定して、モードメニューの設定項目選択画面に戻ります。

7 【MENU】を押す

メニューモードが終了します。

通信操作

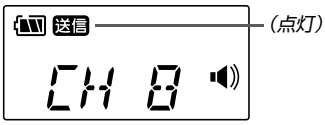
シンプレックスモード

シンプレックスモードで通信する場合は、直接相手を呼び出して通話します。

- 双方のチャンネルやグループ番号を合わせておきます。

1 【PTT】を押しながら話す

「送信」が点灯し、送信状態になります。

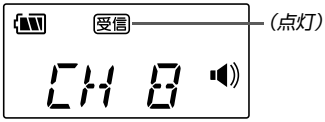


マイク部から口を5cmくらい離してお話しください。

2 話終わったら、【PTT】から指を離す

待ち受け状態になります。

受信すると「受信」が点灯します。



3 【▲】【▼】を押して好みの音量に調整する

手順1と2の操作を繰り返して、通話します。

- ♦ 設定したチャンネル番号がすでに使用されている場合、相手の方と共に、他のチャンネル番号を設定してください。
- ♦ トランシーバー間の距離が近い(10 m以内)と「h7と1」、「h8と2」、「h9と3」のチャンネル間で混信をおこす場合があります。多数のグループが近距離で運用する場合は、同一バンド(h1～h9または1～11チャンネル)内で運用するか、グループ番号を設定して混信を軽減してください。

レピーターアクセスモード

レピーターアクセスモードで通信する場合は、最初にレピーターに接続してから、相手を呼び出して通信します。

- 双方のチャンネルとグループ番号をレピーターのチャンネルとグループ番号に合わせておきます。

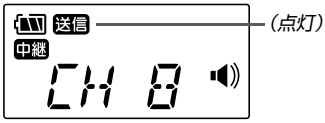
1 【PTT】を押し続ける

レピーターアクセスを確認します。

- アクセス音が鳴ったら【PTT】を押したままで、手順2へ移ってください。
- エラー音(プップップッ…)が鳴ったら手順1の操作を繰り返します。

2 【PTT】を押しながら話す

「送信」が点灯し、送信状態になります。



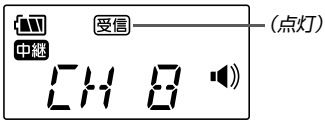
マイク部から口を5cmくらい離してお話しください。

- アクセスが外れたら、再度手順1から操作してください.

3 話終わったら、【PTT】から指を離す

待ち受け状態になります。

受信すると「受信」が点灯します。



4 【▲】【▼】を押して好みの音量に調整する

手順2と3の操作を繰り返して、通話します。

通信時間の制限について・・・

本機の1回の通信時間は、送信・受信を合わせて3分間です。通信終了の30秒前になると、表示部の数字が点滅しながらカウントダウンを始めます。10秒前になると「ピッ」と予告音が鳴り、3分を経過すると送信禁止音とともに送信を停止し、待ち受け状態に戻ります。続けて通信するときは、送信停止2秒後に【PTT】を押して相手を呼び出してください。

- レピーターアクセスモードで送信パワーをローに設定している場合は、通信時間の制限はありません。《「送信パワー設定」☛ p.35》

オートチャンネルセレクト

シンプレックスモードでの運用時に使用できる機能です。自動的にチャンネル内のスキャンをおこない、グループ番号が一致したチャンネルを見つけるとそこで停止して受信をおこなう機能です。スキャン中に【PTT】を押して送信をおこなおうとすると、同じグループ番号の空いているチャンネルが設定され送信をおこないます。

- 《「キーメニュー」☛ p.40》で予めオートチャンネルセレクト操作キー [SCA] をトランシーバー本体の【◀】【▶】【TOP】キーやリモコンマイクロホンのリモコンキーに設定しておきます。
- **グループ番号を設定しないと、オートチャンネルセレクト機能は動作しません。**

オートチャンネルセレクトを使う

1 [SCA]を設定したキーを1 秒以上押す

「ASCN」と表示され、スキャンを開始します。

グループ番号

2 【PTT】を2 ～3 秒押し続ける

空いているチャンネルで 10 秒ほど停止します。停止中に【PTT】を押したまま通常よりゆっくり呼びかけます。

呼びかけが終ったら【PTT】から指を離し、相手の方がそのチャンネルで応答してくるのを待ちます。

3 「受信」が消えてから、【PTT】押して応答する

オートチャンネルセレクトを解除する

4 [SCA]を設定したキーを押す

表示しているチャンネルで待ち受け状態になります。

- 【PTT】や [C31]、[C31] の送信動作するキー以外のキーを押すとオートチャンネルセレクトは解除されます。

♦ 応答は 10 秒以内におこなってください。10 秒以上送信･受信がないと、オートチャンネルセレクトを再開します。

♦ オートチャンネルセレクト中にモニター機能《☛ p.24》を ON にするとスキャンが一時停止して、チャンネルをモニターできます。

オートチャンネルセレクト範囲設定

スキャンするチャンネル範囲を設定します。

1 ファンクション(FUNC)メニューの設定項目選択画面にする

《「メニューの操作」☛ p.19》

2 【▲】または【▼】を押して「BAND」を選択する

設定項目(点滅)

3 【▶】を押す

設定変更画面になります。

設定値(点滅)

4 【▲】または【▼】を押して、設定値を選択する

設定値	動作
Sbd	現在のバンド内のみスキャンします。
ALL	1ch ～ 11ch と h1ch ～ h9ch の 2 つのバンドをスキャンします。

5 【▶】を押す

設定を確定して、ファンクションメニューの設定項目選択画面に戻ります。

モニター

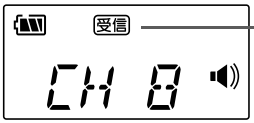
電波が弱いときにスケルチを強制的に開き、信号の状態をモニターすることができます。また、音量を調整するときにも使用できます。

- 《「キーメニュー」☛ p.40》で予めモニター操作キー [mon] をトランシーバー本体の【◀】【▶】【TOP】キーやリモコンマイクロホンのリモコンキーに設定しておきます。

モニターする

1 [mon]を設定したキーを押す

押している間スケルチが開いて「受信」が点灯します。



- 信号を受信していないときは“ザー”という雑音がでます。音量レベルを調整するときの目安にもできます。

モニターを解除する

2 [mon]を設定したキーを離す

スケルチが閉じて、「受信」が消灯します。

> ♦ モニター機能を ON するときは、音量レベルに注意してください。特にイヤホンを使用しているときは、“ザー”というノイズを大きい音量で聞くと耳に障害を受けることがあります。

音量アッテネート

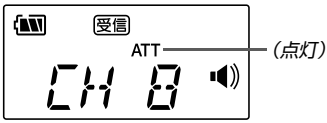
スピーカーからの音量を一時的に下げる機能です。

- 初期設定では【TOP】キーに [SPA] が設定されています。他のキーへの設定変更も可能です。《「キーメニュー」☛ p.40》

音量を下げる

1 [SPA]を設定したキーを押す

「ATT」と表示されスピーカーの音量が下がります。



音量を元に戻す

2 [SPA]を設定したキーを押す
または【▲】または【▼】を押す

音量アッテネートが解除され、元の音量に戻ります。

> ♦ 音量アッテネートを解除するときは、元の音量に注意してください。大音量で耳に障害を受けることがあります。

プラグインミュート解除

スピーカー / マイク端子にオプションを接続している状態でも、プラグインミュート機能を一時的に解除して内蔵スピーカーを有効にすることができます。休憩中などで一時的にイヤホンを耳から外していても内蔵スピーカーから呼出しを聞くことができます。

- 《「キーメニュー」☛ p.40》で予めプラグインミュート操作キー [Plm] をトランシーバー本体の【◀】【▶】【TOP】キーやリモコンマイクロホンのリモコンキーに設定しておきます。

プラグインミュートを解除する

1 [Plm]を設定したキーを押す

「🔊」が点灯します。

プラグインミュートを動作させる

2 [Plm]を設定したキーを押す

「🔊」が消灯します。

コールトーン呼出し

相手を電話の呼出音のような音(コールトーン)で呼び出すことができます。各コールトーンは、操作時に設定されている音色で鳴り、確認することができます。

コールトーン1 で呼び出すとき

【PTT】を押したまま【▼】を押す

押している間コールトーン 1 が送信されます。

コールトーン2 で呼び出すとき

【PTT】を押したまま【▲】を押す

押している間コールトーン 2 が送信されます。

- ♦ トランシーバーの【◀】【▶】【TOP】キーまたは、オプションのリモコンマイクの【1】、【2】および【3】キーにもコールトーン (コールトーン 3-1 またはコールトーン 3-2) を設定することができます。それらのキーを押すとコールトーンが送信されます。《「キーメニュー」☛ p.40》
- ♦ レピーターアクセスの動作開始ときは、レピーターアクセスが成功するまでコールトーンは送信されません。
- ♦ キーロックが動作している間でもコールトーンを送信することができます。

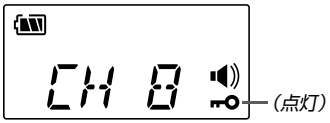
キーロック

間違えてチャンネル番号やグループ番号を変えないように、キーをロックしておくことができます。

キーロックをする

1. 一度電源をOFFにする
2. 【▼】を押しながら、【⏻】を押して電源をONにする

   キーロックが動作します。キーロック中は「🔑」が点灯します。



キーロックを解除する

1. 一度電源をOFFにする
2. 【▼】を押しながら、【⏻】を押して電源をONにする

   キーロックが解除され、「🔑」が消灯します。

キーロック中でも下記のキー操作はできます。

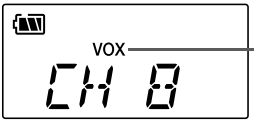
- 【⏻】キー(電源ON/OFF)
- 【⏻】+【MENU】キー(メニューモード)
- 【⏻】+【▼】キー(キーロック解除)
- 【⏻】+【PTT】+【MENU】キー (オールリセット)
- 【PTT】キー(送信)
- 【EmG】キー(エマージェンシー送信)
- 【▲】、【▼】キー(音量調整)
- 【PTT】+【▼】キー(コールトーン1送出)
- 【PTT】+【▲】キー(コールトーン2送出)
- [C31]キー(コールトーン3-1送出)
- [C32]キー(コールトーン3-2送出)
- [mon]キー(モニター)

[EmG]、[C31]、[C32]、[mon] はキーメニューにて機能を設定してあるキーです。《「キーメニュー」☛ p.40》

VOX機能

【PTT】を押さなくても、VOX 対応オプションのマイクに向かって話すだけで自動送信されます。話をやめると自動で待ち受け状態になります。VOX 機能が ON になると「VOX」が点灯します。

- VOX 送信中に【▲】/【▼】で VOX レベルを変更することもできます（OFF にはできません）。



（点灯）

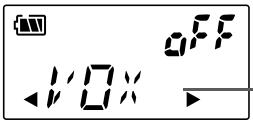
- ♦ VOX 機能を使用する場合は対応するオプションを使用してください。（44 ページの「オプション一覧」で**< VOX 対応>**と記載されている製品）
- ♦ HMC-3(G) のように VOX 機能が内蔵されているオプションを使用するときに、オプションの VOX 機能を使用するときは、トランシーバーの VOX 機能を OFF にしてください。トランシーバーの VOX 機能を使用するときは HMC-3(G) の VOX 機能を OFF、感度調整ボリュームは最小にしてください。
- ♦ VOX 機能は確認音が鳴っているとき、コールトーンが設定されているとき、およびスケルチが開いているときは使用できません。
- ♦ 信号を受信しているときは、送信できません。
- ♦ 本機単体でも VOX 機能は動作しますが、周囲の音で誤送信することがあります。オプションを接続してください。

VOXレベル設定

周りの環境や声の大きさによって、VOX 機能使用時のオプションのマイクが感知する音声レベルを設定できます。声に合わせてスムーズに送受信が切り替わるように設定してください。

1 ファンクション(FUNC)メニューの設定項目選択画面にする
《「メニューの操作」☛ p.19》

2 【▲】または【▼】を押して「VOX」を選択する



設定項目(点滅)

3 【▶】を押す

設定変更画面になります。

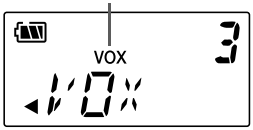
設定値(点滅)

4 【▲】または【▼】を押して、設定値を選択する

設定値	動作
oFF(OFF)	VOX 機能は OFF になります。
1～5	VOX 機能が ON になり、数値が大きいほどマイクの感度が上がります。

- 1～5 に設定しているときは、VOX レベル設定画面と VOX 遅延時間設定画面《☛ p.28》でマイクに向かって話すと、声の大きさが設定レベルに達すると「VOX」が点滅します。VOX レベル調整の目安にします。

(点滅)



5 【▶】を押す

設定を確定して、ファンクションメニューの設定項目選択画面に戻ります。

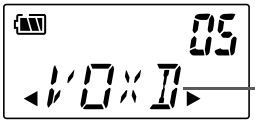
VOX遅延時間設定

VOX 機能使用時に音声の最後が送信されない場合があります。このような場合は 0.3 秒(03)から 3.0 秒(30)の遅延時間を設定すると、話をやめた後設定した時間は送信を継続するため音声が途切れることを防ぐことができます。

1 ファンクション(FUNC)メニューの設定項目選択画面にする

《「メニューの操作」☛ p.19》

2 【▲】または【▼】を押して「VOXD」を選択する



3 【▶】を押す

設定変更画面になります。

4 【▲】または【▼】を押して、設定値を選択する

設定値	動作
03/05/10/15/30	数字が大きいほど遅延時間が長くなります。

5 【▶】を押す

設定を確定して、ファンクションメニューの設定項目選択画面に戻ります。

その他のファンクションメニュー設定

表示に関する設定

バックライト動作設定

表示部照明の点灯条件を設定します。

1 ファンクション(FUNC)メニューの設定項目選択画面にする
《「メニューの操作」☛ p.19》

2 【▲】または【▼】を押して「BLIT」を選択する

3 【▶】を押す

設定変更画面になります。

4 【▲】または【▼】を押して、設定値を選択する

設定値	動作
oFF(OFF)	バックライトは常に消灯します。
ACt	【PTT】以外のキーを操作したときにバックライトが５秒間点灯します。
Any	キーを操作したときや信号を受信するとバックライトが５秒間点灯します。
on(ON)	バックライトが常に点灯します。

5 【▶】を押す

設定を確定して、ファンクションメニューの設定項目選択画面に戻ります。

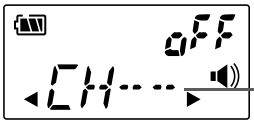
チャンネル非表示設定

チャンネル番号やグループ番号を表示させない設定です。

- この機能を「on(ON)」に設定している場合は、チャンネルを切り替えると、切り替えたチャンネルを2秒間表示します。
  電源をＯＮにした時も現在のチャンネルを2秒間表示します。

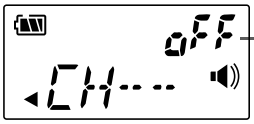
1 ファンクション(FUNC)メニューの設定項目選択画面にする
《「メニューの操作」☛ p.19》

2 【▲】または【▼】を押して「CH--」を選択する



3 【▶】を押す

設定変更画面になります。



4 【▲】または【▼】を押して、設定値を選択する

設定値	動作
oFF(OFF)	チャンネルを表示します。
on(ON)	チャンネルが非表示になります。

5 【▶】を押す

設定を確定して、ファンクションメニューの設定項目選択画面に戻ります。

♦ チャンネル非表示機能とディスプレイネーム機能を両方ＯＮに設定している場合はディスプレイネームを表示します。その他のアイコンやグループ番号などは表示しません。

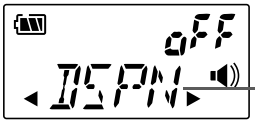
ディスプレイネーム表示設定

文字を登録して、待ち受け時に表示することができます。

- この機能を「on(ON)」に設定している場合は、チャンネルを切り替えると、切り替えたチャンネルを2秒間表示します。
  電源をONにした時も現在のチャンネルを2秒間表示します。

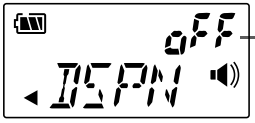
1 ファンクション(FUNC)メニューの設定項目選択画面にする
《「メニューの操作」☛ p.19》

2 【▲】または【▼】を押して「DSPN」を選択する



3 【▶】を押す

設定変更画面になります。



4 【▲】または【▼】を押して、設定値を選択する

設定値	動作
oFF(OFF)	ディスプレイネームは表示せず、チャンネルを表示します。
on(ON)	ディスプレイネームを表示します。

5 【▶】を押す

設定を確定して、ファンクションメニューの設定項目選択画面に戻ります。

ディスプレイネーム内容設定

表示させるディスプレイネームを登録します。

下記の文字が登録できます。

ブランク、0～9、A～Z、h、ー

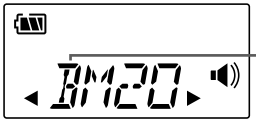
1 ファンクション(FUNC)メニューの設定項目選択画面にする
《「メニューの操作」☛ p.19》

2 【▲】または【▼】を押して「NAME」を選択する

3 【▶】を押す

初期設定の「BM20」が表示されます。

最初の桁の文字が点滅します。



4 【▲】または【▼】を押して、文字を選択する

5 【▶】を押す

次の桁文字が点滅します。

手順4と5を繰り返し4桁目の文字を変更します。

- 前の桁の文字を修正したいときは【◀】を押すと前の桁に戻り文字が点滅します。

6 4桁目の文字が点滅しているときに、【▶】を押す

設定を確定して、ファンクションメニューの設定項目選択画面に戻ります。

音に関する設定

ビープ音量設定

キーを操作したときに鳴る確認音をビープ音といいます。この機能を「oFF」に設定すると、このビープ音を鳴らさないようにできます。また、ビープ音の音量を大中小に設定ができます。

1 ファンクション(FUNC)メニューの設定項目選択画面にする
《「メニューの操作」☛ p.19》

2 【▲】または【▼】を押して「BEEP」を選択する

設定項目(点滅)

3 【▶】を押す

設定変更画面になります。

設定値(点滅)

4 【▲】または【▼】を押して、設定値を選択する

設定値	動作
oFF(OFF)	ビープ音は鳴りません。
L	ビープ音量小
m(M)	ビープ音量中
H	ビープ音量大

5 【▶】を押す

設定を確定して、ファンクションメニューの設定項目選択画面に戻ります。

♦ 以下の警告音、予告音などはビープ音量を「oFF」に設定しても鳴ります。
・通信時間制限予告音
・APO 警告音
・送信禁止音
・コールトーン
・エマージェンシートーン

通話告知音設定

通話開始時に告知音を鳴らし、マイクに話すタイミングをとって受信音声の頭切れを防ぎます。また、通話終了時に告知音を鳴らし、通話終了を知らせる機能です。

1 ファンクション(FUNC)メニューの設定項目選択画面にする
《「メニューの操作」☛ p.19》

2 【▲】または【▼】を押して「TONE」を選択する

設定項目(点滅)

3 【▶】を押す

設定変更画面になります。

設定値(点滅)

4 【▲】または【▼】を押して、設定値を選択する

設定値	動作
oFF(OFF)	告知音は鳴りません。
P-	通話開始時のみ告知音(プロシードトーン)を鳴らします。
- r	通話終了時のみ告知音(リリーストーン)を鳴らします。
P-r	通話開始時と通話終了時に告知音を鳴らします。

5 【▶】を押す

設定を確定して、ファンクションメニューの設定項目選択画面に戻ります。

♦ プロシードトーン / リリーストーン音量は、「ビープ音量」の設定に連動します。
♦ リリーストーンは相手にも聞こえます。

最小ボリューム設定

音量の最小値を設定できます。例えば、最小値を普段聞いている音量レベルに設定すると、VOL キーを誤操作しても普段聞いている音量レベルより下がらないため、相手からの呼び出し音声などを聞き逃すことを防止できます。

1 ファンクション(FUNC)メニューの設定項目選択画面にする

《「メニューの操作」☛ p.19》

2 【▲】または【▼】を押して「MINV」を選択する

3 【▶】を押す

設定変更画面になります。

4 【▲】または【▼】を押して、設定値を選択する

設定値	動作
0～31	数値が小さいほど音量が小さくなります。

- 「最大ボリューム設定」を超える値は設定できません。

5 【▶】を押す

設定を確定して、ファンクションメニューの設定項目選択画面に戻ります。

最大ボリューム設定

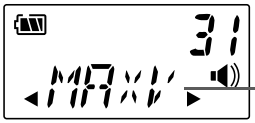
音量の最大値を設定できます。音量を最大にしても、大音量にならないように音量レベルを設定します。イヤホンやヘッドセットで使用するときに、大音量で耳を傷めることを防止できます。

- 最小と最大ボリュームの値を同じにすると、常に同一の音量レベルになります。

1 ファンクション(FUNC)メニューの設定項目選択画面にする

《「メニューの操作」☛ p.19》

2 【▲】または【▼】を押して「MAXV」を選択する



3 【▶】を押す

設定変更画面になります。

4 【▲】または【▼】を押して、設定値を選択する

設定値	動作
0～31	数値が大きいほど音量が大きくなります。

- 「最小ボリューム設定」より低い値は設定できません。

5 【▶】を押す

設定を確定して、ファンクションメニューの設定項目選択画面に戻ります。

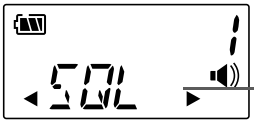
スケルチレベル設定

スケルチ (雑音消去回路) が解除(開く)されるレベルを設定します。スケルチレベルを下げると弱い電波でも受信しやすくなりますが、雑音 (“ザー” という雑音)が多くなります。逆に、スケルチレベルを上げると雑音は少なくなりますが、強い電波しか受信しなくなります。

1 ファンクション(FUNC)メニューの設定項目選択画面にする

《「メニューの操作」☛ p.19》

2 【▲】または【▼】を押して「SQL」を選択する



3 【▶】を押す

設定変更画面になります。

4 【▲】または【▼】を押して、設定値を選択する

設定値	動作
oFF(OFF)	常に受信状態になります (常時モニター)。
1/2/3	数値を下げると、弱い信号でも受信状態になります。 数値を上げると、強い信号のみ受信状態になります。

5 【▶】を押す

設定を確定して、ファンクションメニューの設定項目選択画面に戻ります。

送信に関する設定

内部マイク感度設定

本機内蔵のマイクの感度を３段階で設定できます。相手がこちらの音声を聞き取りにくいときは「H」に設定し、相手への音声が大きすぎるときは「L」に設定します。

1 ファンクション(FUNC)メニューの設定項目選択画面にする

《「メニューの操作」☛ p.19》

2 【▲】または【▼】を押して「MICI」を選択する

3 【▶】を押す

設定変更画面になります。

4 【▲】または【▼】を押して、設定値を選択する

設定値	動作
L	マイク感度を低くします。
m(M)	通常のマイク感度にします。
H	マイク感度を高くします。

5 【▶】を押す

設定を確定して、ファンクションメニューの設定項目選択画面に戻ります。

外部マイク感度設定

接続している外部マイク感度を３段階で設定できます。相手がこちらの音声を聞き取りにくいときは「H」に設定し、相手への音声が大きすぎるときは「L」に設定します。

1 ファンクション(FUNC)メニューの設定項目選択画面にする

《「メニューの操作」☛ p.19》

2 【▲】または【▼】を押して「MICE」を選択する

3 【▶】を押す

設定変更画面になります。

4 【▲】または【▼】を押して、設定値を選択する

設定値	動作
L	マイク感度を低くします。
m(M)	通常のマイク感度にします。
H	マイク感度を高くします。

5 【▶】を押す

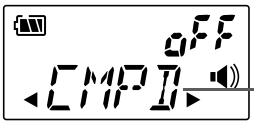
設定を確定して、ファンクションメニューの設定項目選択画面に戻ります。

コンパンダー設定

雑音を抑えて、音声のみを明瞭にする機能です。使用する場所の周りが騒がしく、音声が聞き取りにくい場合に設定します。この機能を使用するには、送信局側と受信局側双方がこの機能を設定してください。

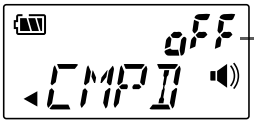
1 ファンクション(FUNC)メニューの設定項目選択画面にする
《「メニューの操作」☛ p.19》

2 【▲】または【▼】を押して「CMPD」を選択する



3 【▶】を押す

設定変更画面になります。



4 【▲】または【▼】を押して、設定値を選択する

設定値	動作
oFF(OFF)	コンパンダーは動作しません。
on(ON)	コンパンダーが動作します。

5 【▶】を押す

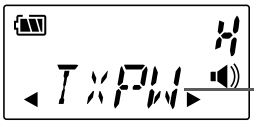
設定を確定して、ファンクションメニューの設定項目選択画面に戻ります。

送信パワー設定

レピーターアクセスモードの 1ch ～ 18ch バンドでは、送信出力を下げて連続送信することができます。「L」に設定すると送信がローパワーの約 1mW になり、「H」に設定にすると送信がハイパワーの約 10mW になります。

1 ファンクション(FUNC)メニューの設定項目選択画面にする
《「メニューの操作」☛ p.19》

2 【▲】または【▼】を押して「TXPW」を選択する



3 【▶】を押す

設定変更画面になります。

4 【▲】または【▼】を押して、設定値を選択する

設定値	動作
H	送信出力を約 10mW にします。
L	送信出力を約 1mW にします。

5 【▶】を押す

設定を確定して、ファンクションメニューの設定項目選択画面に戻ります。

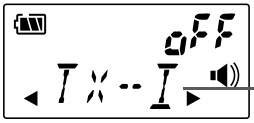
♦ レピーターアクセスモードの h1ch ～ h9ch やシンプレックスモードでは送信出力を下げることはできません。

送信禁止設定

トランシーバーを受信専用で使用するときに誤って【PTT】を押しても送信させない設定です。

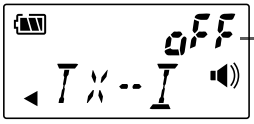
1 ファンクション(FUNC)メニューの設定項目選択画面にする
《「メニューの操作」☛ p.19》

2 【▲】または【▼】を押して「TX-I」を選択する



3 【▶】を押す

設定変更画面になります。



4 【▲】または【▼】を押して、設定値を選択する

設定値	動作
oFF(OFF)	送信動作を許可します。
on(ON)	送信動作を禁止します。

5 【▶】を押す

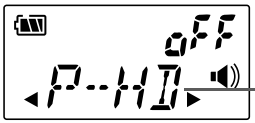
設定を確定して、ファンクションメニューの設定項目選択画面に戻ります。

PTTホールド設定

通常は送信するときは【PTT】キーを押し続けますが、本機能を「on(ON)」に設定すると、【PTT】キーを一度押せば【PTT】キーを離しても送信が継続します。送信を止めるときはもう一度【PTT】キーを押します。

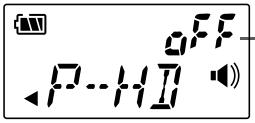
1 ファンクション(FUNC)メニューの設定項目選択画面にする
《「メニューの操作」☛ p.19》

2 【▲】または【▼】を押して「P-HD」を選択する



3 【▶】を押す

設定変更画面になります。



4 【▲】または【▼】を押して、設定値を選択する

設定値	動作
oFF(OFF)	【PTT】キーを押し続けると送信状態になり、【PTT】キーを離すと待ち受け状態になります。
on(ON)	【PTT】キーを押すと送信状態が継続され、再度【PTT】キーを押すと待ち受け状態になります。

5 【▶】を押す

設定を確定して、ファンクションメニューの設定項目選択画面に戻ります。

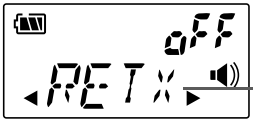
♦ ヘッドセットやイヤホンマイクを接続しているときに PTT ホールド機能を使用する場合は、VOX 対応のオプションを使用してください（44 ページのオプション一覧で**< VOX 対応>**と記載されている製品）。VOX 対応以外のオプションを使用すると、PTT ホールドで送信しても送信者の音声は相手に聞こえません。

自動復帰設定

「PTT ホールド」が「on(ON)」に設定されている場合、通信時間の制限により通信が終了しても、送信休止時間(2秒)後に自動で送信を再開する機能です。

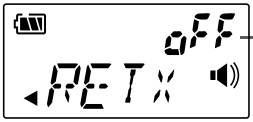
1 ファンクション(FUNC)メニューの設定項目選択画面にする
《「メニューの操作」☛ p.19》

2 【▲】または【▼】を押して「RETX」を選択する



3 【▶】を押す

設定変更画面になります。



4 【▲】または【▼】を押して、設定値を選択する

設定値	動作
oFF(OFF)	自動で送信は再開しません。
on(ON)	自動で送信を再開します。

5 【▶】を押す

設定を確定して、ファンクションメニューの設定項目選択画面に戻ります。

- ♦ 送信休止時間経過後、使用チャンネルに受信信号がある場合は送信は再開しません。
- ♦ レピーターアクセスモードで自動復帰する場合は、送信休止時間経過後に再度レピーターにアクセスをします。

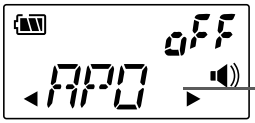
バッテリーに関する設定

オートパワーオフ設定

この機能を「on(ON)」に設定すると、1 時間 59 分間キー操作がおこなわれなかった場合、電源を切り忘れたとみなして告知音を鳴らします。さらに同じ状態が 1 分間続くと「APO」と点滅表示して自動で電源を切ります。トランシーバーの電源を切り忘れたときに、バッテリーパックの消耗を防ぎます。

1 ファンクション(FUNC)メニューの設定項目選択画面にする
《「メニューの操作」☛ p.19》

2 【▲】または【▼】を押して「APO」を選択する



3 【▶】を押す

設定変更画面になります。

4 【▲】または【▼】を押して、設定値を選択する

設定値	動作
oFF(OFF)	オートパワーオフ機能は動作しません。
on(ON)	オートパワーオフ機能が動作します。

5 【▶】を押す

設定を確定して、ファンクションメニューの設定項目選択画面に戻ります。

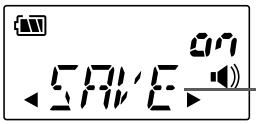
♦ モニター中やオートチャンネルセレクト中は、オートパワーオフ機能は動作しません。

バッテリーセーブ設定

バッテリーパックの消耗を防ぐ機能です。待ち受け状態で約 5 秒間キー操作がないと、この機能が働きます。信号を受信するか、キー操作がおこなわれるとバッテリーセーブは解除されます。

1 ファンクション(FUNC)メニューの設定項目選択画面にする
《「メニューの操作」☛ p.19》

2 【▲】または【▼】を押して「SAVE」を選択する



3 【▶】を押す

設定変更画面になります。

4 【▲】または【▼】を押して、設定値を選択する

設定値	動作
oFF(OFF)	バッテリーセーブ機能は動作しません。
on(ON)	バッテリーセーブ機能が動作します。

5 【▶】を押す

設定を確定して、ファンクションメニューの設定項目選択画面に戻ります。

♦ バッテリーセーブ機能が働いているときに、同じグループを受信すると、バッテリーセーブ機能は自動的に解除されますが、違うグループを受信している場合は、バッテリーセーブ機能は解除されません。このときに受信信号の確認動作を繰り返しおこなうため、「受信」が点滅することがあります。

♦ モニター中やオートチャンネルセレクト中は、バッテリーセーブ機能は動作しません。

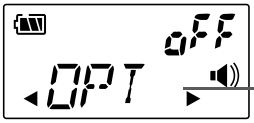
システム機能設定

オプション出力設定

ケンウッド指定のシステム機器を使用する際に設定する機能です。トランシーバーと外部システム機器を連動させる為、スピーカー /マイク端子の 3V 電圧出力条件を選択します。

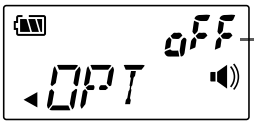
1 ファンクション(FUNC)メニューの設定項目選択画面にする
《「メニューの操作」☛ p.19》

2 【▲】または【▼】を押して「OPT」を選択する



3 【▶】を押す

設定変更画面になります。



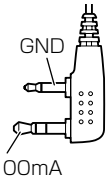
4 【▲】または【▼】を押して、設定値を選択する

設定値	動作
oFF(OFF)	常に 3V 電圧を出力します。
CAr	信号を受信したときに 3V 電圧を出力します。
SqL	スケルチが開いたときに 3V 電圧を出力します。
GrP	グループ番号が一致したときに 3V 電圧を出力します。

5 【▶】を押す

設定を確定して、ファンクションメニューの設定項目選択画面に戻ります。

♦ 3V 電圧は下記のマイクプラグ端子に出力されます。



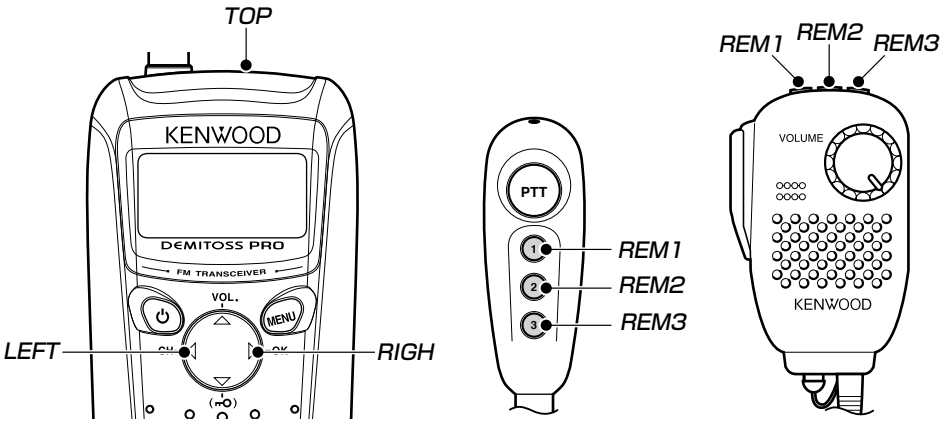
♦ バッテリーセーブ機能は OFF で使用してください。
使用しているチャンネルにグループ番号を設定している場合、バッテリーセーブ機能が ON になっていると、オプション出力を「CAr」や「SqL」に設定しても、グループ番号が一致しない信号を受信した時は、3V 電圧は正常に出力されません。

♦ オプション出力設定が「oFF」以外の場合は、接続しているオプションへ正常に電圧供給ができなくなります。外部システム機器と連動させない場合は初期設定の「oFF」に設定してください。

キーメニュー設定

キーメニュー

トランシーバー本体の【◀】(LEFT) キー、【▶】(RIGH) キー、【TOP】キーおよびオプション UMC-100 や SMC-34(G) などのリモコンキー(【1】(REM1)、【2】(REM2)、【3】(REM3))に機能を設定するメニューです。



トランシーバー本体キーとリモコンキー共通に設定できる機能

設定値	動作	参照ページ
CHd	チャンネル・ダウン< LEFT の初期値>	16
CHU	チャンネル・アップ< RIGH の初期値>	
SCA	オートチャンネルセレクト	24
SPA	音量アッテネート< TOP の初期値>< REM3 の初期値>	25
mon	モニター	
Plm	プラグインミュート解除	
C31	コールトーン 3-1 の送出	26
C32	コールトーン 3-2 の送出	
oFF(OFF)	機能を設定しません	—

【TOP】キーとリモコンキーのみに設定できる機能

設定値	動作	参照ページ
EmG	エマージェンシー送信	42

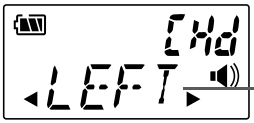
リモコンキーのみに設定できる機能

設定値	動作	参照ページ
vLU	音量・アップ< REM1 の初期値>	16
vLd	音量・ダウン< REM2 の初期値>	

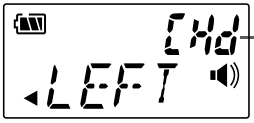
トランシーバー本体キーの設定

1 キー(KEY)メニューの設定項目選択画面にする
《「メニューの操作」☛ p.19》

2 【▲】または【▼】を押して「LEFT」、「RIGH」または「TOP」を選択する



3 【▶】を押す
設定変更画面になります。



4 【▲】または【▼】を押して、設定値を選択する

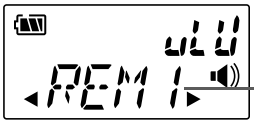
設定値	動作
oFF(OFF)	機能を設定しません
mon	モニター
SCA	オートチャンネルセレクト
C31	コールトーン 3-1 の送出
C32	コールトーン 3-2 の送出
SPA	音量アッテネート
Plm	プラグインミュート
CHU	チャンネル・アップ
CHd	チャンネル・ダウン
EmG	エマージェンシー送信 (「TOP」のみ)

5 【▶】を押す
設定を確定して、キーメニューの設定項目選択画面に戻ります。

リモコンキーの設定

1 キー(KEY)メニューの設定項目選択画面にする
《「メニューの操作」☛ p.19》

2 【▲】または【▼】を押して「REM1」、「REM2」または「REM3」を選択する



3 【▶】を押す
設定変更画面になります。

4 【▲】または【▼】を押して、設定値を選択する

設定値	動作
oFF(OFF)	機能を設定しません
mon	モニター
SCA	オートチャンネルセレクト
C31	コールトーン 3-1 の送出
C32	コールトーン 3-2 の送出
SPA	音量アッテネート
Plm	プラグインミュート
CHU	チャンネル・アップ
CHd	チャンネル・ダウン
EmG	エマージェンシー送信
vLU	音量・アップ
vLd	音量・ダウン

5 【▶】を押す
設定を確定して、キーメニューの設定項目選択画面に戻ります。

エマージェンシー機能

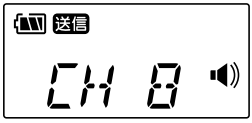
エマージェンシー操作

緊急時に「EmG」を設定したキーを押して、自分が緊急状態であることを通知する機能です。

エマージェンシー動作を開始する

1 【EmG】を設定したキーを2秒以上押し続ける

エマージェンシートーンが鳴り、現在のチャンネルでエマージェンシー動作を開始します。



- 下記のエマージェンシー動作を繰り返します。
  1. エマージェンシートーンが鳴る(5 秒)
  2. エマージェンシートーンを送信する(3秒)
  3. 音声を送信する(17 秒)
  4. エマージェンシートーンが鳴る(5 秒)
  5. 待ち受け(40 秒)
- エマージェンシー送信中は自動でマイク感度を上げて送信音声を大きくします。
- バックグランドトーン設定が「on(ON)」のときは送信音声にバックグランドトーンを加えて送信します。《「バックグランドトーン設定」☛ p.43》
- エマージェンシー動作中は、【⏻】、【PTT】、【▲】、【▼】以外のキーは動作しません。

エマージェンシー動作を解除する

2 【EmG】を設定したキーを2秒以上押し続ける

エマージェンシー動作が解除されます。

- 電源を OFF にするとエマージェンシー動作は解除されます。

エマージェンシーを受信したら

- 送信している側のバックグランドトーン設定が「on(ON)」のときは送信者の音声と共にバックグランドトーンが鳴ります。《「バックグランドトーン設定」☛ p.43》

♦ ヘッドセットやイヤホンマイクを接続しているときに、エマージェンシー機能を使用する場合は、VOX 対応のオプションを使用してください（44 ページのオプション一覧で**< VOX 対応 >**と記載されている製品)。VOX 対応以外のオプションを使用すると、エマージェンシー送信時に送信者の音声が相手に聞こえません。

♦ エマージェンシー動作を繰り返す際、エマージェンシー再送信前にエマージェンシートーンを 5 秒間出力します。(【PTT】押して送受信を切り替えたときはエマージェンシートーンは出力されません。)

♦ エマージェンシー送信開始時にチャンネルが使用されている(「受信」が表示されているとき)場合は、チャンネルが空いたときにエマージェンシー送信を開始します。

♦ レピーターアクセスモードの場合は、待ち受け状態から送信に戻ったときに再度レピーターにアクセスをおこないます。但し、アクセス状態が維持されている場合、アクセスはおこないません。

エマージェンシーメニュー

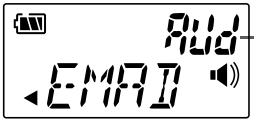
エマージェンシー機能を設定するためのモードです。

エマージェンシーオーディオ動作設定

自分の回りの人にエマージェンシー機能が動作している事を知られたくないときなどに、エマージェンシートーンを出力する方法を選択します。

1 エマージェンシー(EMER)メニューの設定項目選択画面にする
《「メニューの操作」☛ p.19》

2 【▲】または【▼】を押して「EMAD」を選択する



3 【▶】を押す
設定変更画面になります。

4 【▲】または【▼】を押して、設定値を選択する

設定	動作
SIL	エマージェンシー動作時、内蔵と外部スピーカーどちらからも音声は出力されません。
ESP	エマージェンシー動作時、外部スピーカーからのみ音声が出力されます。
AUd	エマージェンシー動作時、内蔵と外部スピーカー両方から音声が出力されます。

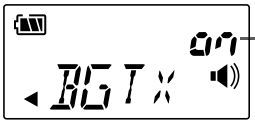
5 【▶】を押す
設定を確定して、エマージェンシーメニューの設定項目選択画面に戻ります。

バックグランドトーン設定

エマージェンシー送信中にバックグランドトーンを付加して、エマージェンシー動作中であることを示す機能です。通常の送信とエマージェンシー送信を判別したいときに使用します。この機能を「on(ON)」にするとエマージェンシー送信時に1秒間隔で送信音声にバックグランドトーンを付加します。

1 エマージェンシー(EMER)メニューの設定項目選択画面にする
《「メニューの操作」☛ p.19》

2 【▲】または【▼】を押して「BGTX」を選択する



3 【▶】を押す
設定変更画面になります。

4 【▲】または【▼】を押して、設定値を選択する

設定	動作
oFF(OFF)	エマージェンシー送信中にバックグランドトーンを付加しません。
on(ON)	エマージェンシー送信中にバックグランドトーンを付加します。

5 【▶】を押す
設定を確定して、エマージェンシーメニューの設定項目選択画面に戻ります。

その他

オプション一覧

本機用として下記のオプションが用意されています。

UCM-100.....コントロールマイクロホン**<VOX対応>**
（UCM-100は単体では使用できません。UHS-1、UHS-2、UHS-3と組み合わせてご使用ください。）

UHS-1 .....イヤーフックタイプイヤホン
UHS-2 .....アコースティックチューブイヤホン
UHS-3 .....カナルタイプイヤホン
HS-9(G).....プチホン型イヤホン
EMC-3 .....イヤホン付きクリップマイクロホン
EMC-7 .....イヤホン付きクリップマイクロホン（耳掛けタイプ）**<VOX対応>**
EMC-5F.....イヤホン付きクリップマイクロホン（マイク感度切り替え付き）**<VOX対応>**
KHS-21.....ヘッドセット（PTTスイッチ無しのシンプルタイプ）**<VOX対応>**
KHS-29F.....ヘッドセット（耳掛けタイプ）**<VOX対応>**
HMC-3(G).....ヘッドセット（感度調整VOL付きVOX機能内蔵）**<VOX対応>**
SMC-34(G) .....リモコン対応ボリューム付きスピーカーマイクロホン
SB-4.....ネックストラップ（セーフティ機構付き）
UPB-6L .....リチウムイオンバッテリーパック（本体同梱品）
UBC-5ML.....ACアダプター（充電台６連結用）

♦ ヘッドセットやイヤホン付クリップマイクロホンを接続しているときに、エマージェンシー機能やPTT ホールド機能を使用するときは<VOX 対応>のオプションを使用してください。<VOX 対応>以外のオプションを接続すると下記の状態になります。
- エマージェンシー送信時に送信者の音声が相手に聞こえません。
- PTT ホールドで送信しても送信者の音声は相手に聞こえません。

♦ 本機に使用できるオプション製品が追加されたり、生産が終了することがあります。オプション製品についてはカタログ等を参照してください。

故障かな？と思ったら

修理を依頼される前に下の表を確認してください。該当する症状がない場合や異常を解決できない場合は、リセットしてください。

共通

症　状	原　因	処　置	参照ページ
● 電源が入らない ● 表示がすぐ消える ● 表示が点滅して、電源が切れない	バッテリー容量が低下している	バッテリーパックを充電する	10
		バッテリーパックを交換する	9
● 受信できない ● 音量レベルを上げても音が出ない	送信中になっている	送信をやめる	16
	PTT ホールド機能が動作している	【PTT】を押して送信をやめる	36
	グループ番号が違う	グループ番号を相手と同じにする	17
	最大音量ボリュームが0に設定されている	1以上に設定する	32
	音量アッテネートが動作している	【TOP】キー(オレンジ色)を押してアッテネーターを解除する	25
相手と通話できない	運用モードが違っている	相手と同じ運用モードにする	22
	チャンネルかグループ番号が違う	チャンネル、グループ番号を相手と同じに合わせる	17
	相手との距離が離れすぎている	通話のできる距離を目安に通話する	7
チャンネルが切り替わらない	キーロックになっている	キーロックを解除する	26
	【◀】/【▶】キーがチャンネルアップ/ダウン以外の動作キーに設定されている	簡易メニューでチャンネルを切り替える	17
送信ができない	「受信」が点灯している	チャンネルを変更するか、「受信」が消えるのを待つ	16
	送信禁止が ON に設定されている	OFF に設定する	36
表示部の照明が消えない	照明が常時点灯の設定になっている	バックライト動作を ACt、Any または OFF に設定する	29
バッテリーがすぐ消耗する	照明の常時点灯をよく使う	常時点灯は必要なときだけ使う	29
	バッテリーセーブを OFF に設定している	ON に設定する	38
音声が聞き取れない	送信側 / 受信側いずれか一方のボイススクランブル機能が ON になっている	送信側 / 受信側ともにボイススクランブル機能を ON または OFF の同じ設定にする	18
何も聞こえないのに「受信」が点灯する	グループ番号が設定された状態でスケルチが OFF になっている	スケルチレベルを1～5に設定する	33
オートチャンネルセレクトが動作しない	グループ番号が設定されていない	グループ番号を設定する	17
	運用モードがレピーターアクセスモード(SdP)に設定されている	シンプレックスモード(SP)に設定する	22

中継器を使用している場合

症　状	原　因	処　置	参照ページ
中継器にアクセスできない	**アクセスエラー音が鳴らない** ● 運用モードがレピーターアクセスモードになっていない	運用モードをレピーターアクセスモード(SdP)に設定する	22
	アクセスエラー音が鳴る ● チャンネル番号、グループ番号が中継器の番号と違う	チャンネル番号、グループ番号を中継器の番号と合わせる	17
	● 中継器との距離が離れすぎている	通話のできる距離を目安に通話する	7

リセット

リセットをおこなうと、設定されている内容はすべて初期の設定状態に戻ります。

1 一度電源をOFFにする

2 【PTT】と【MENU】を押しながら、【⏻】を押して電源をONにする

表示が全点灯します。

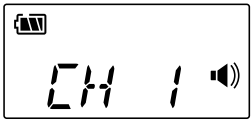
● 全点灯時に本機では使用しないアイコンも表示されます。

3 【PTT】、【MENU】、【⏻】のいずれかのキーを離す

「SURE」と表示されます。

4 【▶】を押す

オールリセットして、待ち受け状態になります。



● 【▶】以外のキーを押した場合は、リセットしないで、待ち受け状態になります。

保証とアフターサービス (よくお読みください)

【保証書(別添)】
この製品には、保証書を(別途)添付しております。保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

【保証期間】
保証期間は、お買い上げの日より **1 年間**です。

【補修用性能部品の最低保有期限】
ケンウッドはこの本製品の補修用性能部品を、製造打ち切り後、8 年保有しています。(補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。)

【修理に関する相談窓口】
修理に関するご相談ならびに不明な点は、お買い上げの販売店またはケンウッドのサービスセンターへお問い合わせください。(お問い合わせ先は、"ケンウッド全国サービス網"をご覧ください。)

修理を依頼されるときは

「故障かな?と思ったら」(45 ページ)を参照してお調べください。それでも異常があるときは、製品の電源を切って、お買い上げの販売店またはケンウッドサービスセンターにお問い合わせください。

修理に出された場合、設定されたデータが消去される場合がありますので、別途お客様ご自身でお控え下さいますようお願いいたします。また、本機の故障、誤動作、不具合等によって通話などの利用の機会を逸したために発生した損害などの付随的損害につきましては、ケンウッドは一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

【保証期間中は】
正常な使用状態で故障が生じた場合、保証書の規定に従って、お買い上げの販売店またはケンウッドのサービスセンター、営業所が修理させていただきます。修理に際しましては、保証書をご提示ください。

【保証期間が過ぎているときは】
修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。
<防塵 / 防水性能維持のためのメンテナンスはございません。>

持込修理
この製品は持込修理とさせていただきます。修理をご依頼のときは、製品名、製造番号、お買い上げ日、故障の状況(できるだけ具体的に)、ご住所、お名前、電話番号をお知らせください。

【修理料金の仕組み】(有料修理の場合は次の料金が必要です。)
技術料: 製品の故障診断、部品交換など故障箇所の修理および付帯作業にかかる費用です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれます。
部品代:修理に使用した部品代です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
送料: 郵便、宅配便などの料金です。保証期間内に無償修理などをおこなうにあたって、お客様に負担していただく場合があります。

仕様

チャンネル数 ..... 47 ch
シンプレックスモード : 20 ch
レピーターアクセスモード : 27 ch
使用周波数帯 ..... 400 MHz 帯
送信出力 ..... 10 mW/1 mW *
電波型式 F3E
低周波出力 ..... 50 mW 以上（8 Ω負荷、10% 歪率時）
電源電圧 ..... DC 3.8 V
使用温度範囲 ..... − 10 ℃～+ 50 ℃
外形寸法 (突起物含まず) ..... 幅 49 × 高さ 99.8 × 奥行 22.5 mm
本体質量 (重さ) ..... 約 125 g（付属バッテリーパックを含む）

* レピーターアクセスモードの CH1 ～ CH18 設定時のみ有効

※仕様は予告なく変更することがあります。

KENWOOD

株式会社 ケンウッド

〒 192-8525　東京都八王子市石川町 2967-3

● 商品および商品の取り扱いに関するお問い合わせは、JVC ケンウッドカスタマーサポートセンターをご利用ください。

フリーダイヤル 0120-2727-87
発信者番号が非通知の場合は、『0120』の前に『186』を付けてからおかけください。
＜電話番号を良くお確かめの上、おかけ間違いのないようにご注意ください。＞
携帯電話・PHS・一部の IP 電話などフリーダイヤルがご利用になれない場合は、
045-450-8950

ＦＡＸ	045-450-2308
住所	〒 221-8528　横浜市神奈川区守屋町 3-12
受付日	月曜日～土曜日（祝祭日・弊社休日を除く）
受付時間	月曜日～金曜日　9：30 ～ 18：00 土曜日　9：30 ～ 12：00、13：00 ～ 17：30

● 修理などアフターサービスについては、お買い上げの販売店、または最寄りのケンウッド・サービスセンターにご相談ください。（“ケンウッド全国サービス網”をご参照ください。）

● ユーザー登録 (My-Kenwood) をご利用ください。
お買い上げいただいたケンウッド商品をご愛用いただくために、弊社ホームページ内でユーザー登録することをおすすめします。

URL http://jp.my-kenwood.com